

シリアの考古遺跡周辺における河成地形・堆積物と古環境

Fluvial landforms and deposits and paleoenvironments in and around Syrian archaeological sites

小口 高 [1]; 堀 和明 [2]; 小口 千明 [3]

Takashi Oguchi[1]; Kazuaki Hori[2]; Chiaki T. Oguchi[3]

[1] 東大・空間情報; [2] 名城大; [3] 埼大・地圏セ

[1] CSIS, Univ. Tokyo; [2] Meijo Univ.; [3] GRIS, Saitama Univ.

<http://ogu.csis.u-tokyo.ac.jp>

乾燥地域における第四紀の地形形成には、河川の作用が強く関与している。このことは合衆国南西部などの研究を通じて具体的に明らかにされているが、研究が進んでいない地域も多く、特に中東のアラブ国家での研究は少ない。本発表では、第四紀の地形研究が少ない乾燥地域の一つであるシリアについて、第四紀後期の河川地形と堆積物の特徴を報告する。シリアでは考古遺跡の周辺において比較的詳細なデータが得られている。その理由は、考古学者との連携により長期の野外調査をしやすいことと、石器などの考古遺物が地形や堆積物の編年に利用可能なことである。数カ所の考古遺跡の周辺から得られた情報によると、第四紀後期の河川の作用は気候変化に対応して顕著に変化した。河川による堆積は相対的に湿潤な MIS3-4、氷期と後氷期の境、および完新世の中期に活発となった。一方、最終氷期極相期を含む MIS2 には、乾燥した気候の下で河川による堆積が不活発となり、地表付近では炭酸塩鉱物の析出が活発となった。